

## 1856年ハワイ・ホノルル港の船舶航運

松浦 章

### 1 緒言

ハワイ (Hawaii) 諸島は太平洋に位置しハワイ島、マウイ島、オアフ島、カウアイ島、モロカイ島、ラナイ島、ニイハウ島、カホオラウェ島などの8つの島と100以上の小島からなり、アメリカ合衆国の50番目の州である。州都はオアフ島のホノルル (Honolulu) 市にある。1778年にイギリス人キャプテン・クックにより世界的に知られるようになり、1795年にカメハメハ1世がハワイ諸島を統一してハワイ王国を建国している。その後、アメリカから多くの宣教師が来航しキリスト教文化がもたらされた。1843年にイギリスがハワイの領有を、1849年にはフランスがハワイの領有を宣言し、列強の間でハワイが地理的に重視されたが、1894年にはハワイ共和国となった。しかしキューバでの独立運動を契機に1898年アメリカとスペインとの間に発生した米西戦争に関連して、アメリカ合衆国はハワイ共和国を併合しハワイ準州とした。それ以降、ハワイはアメリカの太平洋支配の拠点となっている。ハワイには1850年ころから中国人移民が入植し、日本からも早くも1868年(明治元年)に横浜から100余人々が移民したとされている。<sup>1</sup>

このようなハワイにおいて1856年6月に創刊された“*The Pacific Commercial Advertiser*”がある。同紙に掲載された船舶情報から、同年中にハワイのホノルル港に入港した船舶の状況について述べてみたい。

### 2 ハワイの新聞

ハワイ島ホノルルの478, South King Street にハワイ州立図書館 Hawaii State



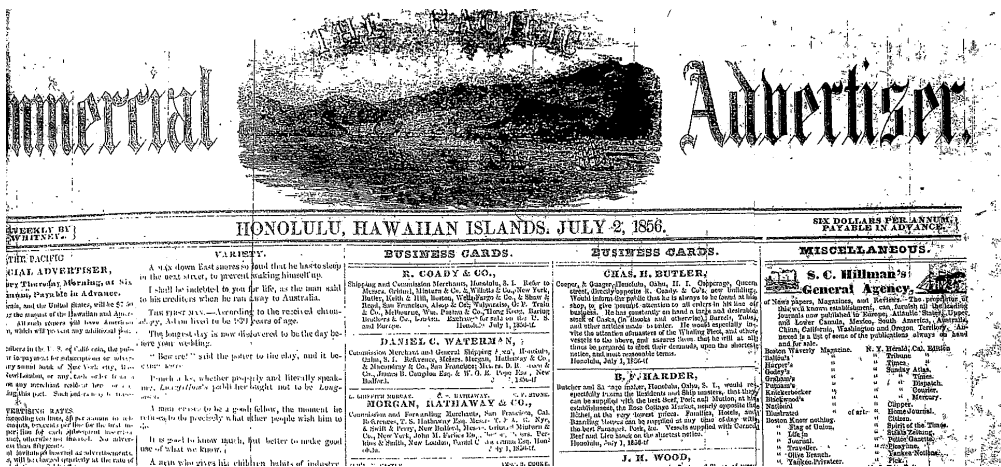
ハワイ州立図書館 2012年12月24日撮影

<sup>1</sup> Phil Barnes, *A Concise History of Hawaiian Islands*, First edition 1999, 2011, pp.25-56.

Library があり、同館では簡単に図書が閲覧でき、図書館の地下にはマイクロ・フィルムの閲覧室がある。マイクロ・リーダーが空いていれば、自由に閲覧出来る。マイクロ・フィルムはロッカーに保管され、自由に出して閲覧出来るきわめて自由な図書館である。

マイクロ・フィルムのプリントは、若干短い A4 サイズで 1 枚 15 セントであるが、プリント費用は一枚毎にコピー機に入金する方法でコピーできるのが不便である。同館で閲覧した“The Pacific Commercial Advertiser”は全てマイクロ・フィルムの形状で保管されている。

同紙は 1856 年 6 月 2 日に Vol.1, No.1 が創刊され、ハワイの商業経済に関する地方紙として、定期的に表 1 のようにほぼ毎週刊行されていた。



“The Pacific Commercial Advertiser”1856 年 7 月 2 日創刊号第 1 頁

The Pacific Commercial Advertiser Vol.1 一覧表 表 1

No	Date	No	Date	No	Date
Vol.1-1	18560702	Vol.1-11	18560911	Vol.1-21	18561120
Vol.1-2	18560710	Vol.1-12	18560918	Vol.1-22	18561127
Vol.1-3	18560717	Vol.1-13	18560925	Vol.1-23	18561204
Vol.1-4	18560724	Vol.1-14	18561002	Vol.1-24	18561211
Vol.1-5	18560731	Vol.1-15	18561009	Vol.1-25	18561218
Vol.1-6	18560807	Vol.1-16	18561016	Vol.1-26	18561225
Vol.1-7	18560814	Vol.1-17	18561023	Vol.1-27	18570101
Vol.1-8	18560821	Vol.1-18	18561030		
Vol.1-9	18560828	Vol.1-19	18561106		

Vol.1-10	18560904	Vol.1-20	18561113		
----------	----------	----------	----------	--	--

“*The Pacific Commercial Advertiser*”の毎号に‘Port of Honolulu, H.I.’欄があり、創刊号には‘Arrivals since June 1’と、’Departures since June 1’が掲載され、No.2以降は、’Arrivalsと’Departures’として掲載されている。創刊号は7月2日であったことから、一ヶ月遡ってホノルル港に入港した船舶情報が見られる。創刊号の最初の入港船の記録には次のように記されている。

June 2. –Am. Bark What Cheer, Baker, 50 days frm Sydney, en route for San Francisco, touched for water and provisions.

とある。6月2日に入港したのはアメリカ船籍のバーク型帆船で、船名は What Cheer で船長は Barker で 50 日をかけてシドニーから到着し、サンフランシスコに向かうため水と食料を求めて寄港したことが記録されている。基本的には以下の記録も同様に簡単に記されている。

次にこれらの記録、6月初めから12月末までの7ヶ月の記録をもとにハワイ・ホノルル港の船舶事情を見てみたい。

### 3 1856年におけるハワイの船舶航運

先の“*The Pacific Commercial Advertiser*”の船舶情報に関する記録から入港記録のみを整理したものが後掲の表2である。

上記の表に示したハワイのホノルル港について考察を加えたい。

#### 1) 入港船の隻数・船式

1856年6月2日から12月29日までの間にホノルル港へ入港した総数は377隻にのぼる。船籍を明記した船は、最も多いのがアメリカ船で141隻、ハワイ船が27隻、イギリス船が17隻、フランス船が9隻、チリ船が5隻、ベルギー船が4隻、ハンブルグ船が2隻、ペルー船が2隻、ロシア船が2隻、タヒチ船が2隻で、アメリカ船以外の外国船籍の船43隻、22.8%で、アメリカ船籍を加えると184隻でその割合は48.8%になり、ホノルル入港の船舶のほぼ半数が外国船籍の船舶であったことがわかる。

この他、船籍未記入船が120隻にのぼる。しかし船籍未記入船の殆どが、船名からハワイ船であることがわかるから、先の27隻を合算すると147隻になり、約39%の達している。しかしアメリカ船の141隻が37.4%を占めることから、ハワイがアメリカの準州になる40余年前ではあるが、アメリカが如何にハワイを海上航路上の重要な寄港地として認識していたかが明らかであろう。

船式すなわち当時の船体の形状から見てみると、377隻の船舶の内には、ハワイの船舶で何度も入港した事例が含まれるが、次のようになる。

1856年6-12月のホノルル入港船舶の船式数一覧 表3

Schooner	Ship	Brig	Bark	Clipper ship	Steamer	その他	不明
185 隻	101 隻	49 隻	26 隻	7 隻	1 隻	4 隻	4 隻
49.0%	26.8 %	13.0%	6.9%	1.9%	0.2%	1.1%	1.1%

Schooner は元来 schooner とされ、アメリカのマサチューセッツの Gloucester で船長 Andrew Robinson によって建造された新型帆船<sup>2</sup>であり、船体が細身で縦帆を使う帆船である。

Ship は、船舶一般を示す用語であるが、“*The Pacific Commercial Advertiser*”では帆船を総称しているようである。

Brig は二本マストの帆船で各マストに横帆が使われている。<sup>3</sup>

Bark は、barque のことで3本以上のマストを有し、最後尾のマストだけが縦帆であって、他は横帆を装備された帆船である。<sup>4</sup>基本的には3本マストの横帆を基本とし、最後尾のマストの上の一段、二段は横帆で最下段に縦帆が使用されている。

Clipper ship は一般的には快速帆船の意味で使用される。<sup>5</sup>快速帆船はヨーロッパを中心に様々な帆船があったが、Clipper ship として有名なのが、18世紀末にアメリカの Baltimore で建造された高速帆船が有名になり、この名が多用された。<sup>6</sup>

Steamship は、周知の汽船である。

“*The Pacific Commercial Advertiser*”の上記の期間に見られる蒸気船は7月10日にサンフランシスコから13日かけて到着したアメリカ船隻の America 号のみである。参考に1848-1866年にかけてサンフランシスコとパナマの間を航行した Pacific Mail Steamship Co.のカリフォルニア号の図を参考に掲げたい。



## 2) サンフランシスコからの入港船

<sup>2</sup> 佐波宣平『海の英語 イギリス海事用語根源』研究社、1971年2月、368-369頁。

<sup>3</sup> 神戸商船大学海事用語辞典編纂委員会編『英和海事用語辞典』海文堂出版、1963年4月、59頁。

<sup>4</sup> 『英和海事用語辞典』38頁。

<sup>5</sup> 『英和海事用語辞典』93頁。

<sup>6</sup> 佐波宣平『海の英語 イギリス海事用語根源』99頁。

次に1856年6月から12月までの間にサンフランシスコからホノルルに到着した船舶は、先のアメリカ号を含め23隻にのぼる。ホノルル入港の船舶377隻の6%である。しかし上記のようにホノルルに入港した外国船籍の船舶は184隻であったから、外国船に限定すると12.5%とホノルルとサンフランシスコとの航運が重要な航路の一つであったことは確かであろう。

1856年6-12月サンフランシスコからホノルル入港船一覧 表4

月日	船籍	船式	船名	出港地	航海日数
616	French	Frigate	Aleeste	San Francisco	16
710	Am.	steamer	America	San Francisco	13
710	Haw	sch	Maria	San Francisco	13
715	Am.	bark	Fanny	San Francisco	13
722	Am	bark	Frances Pahmer	San Francisco	11
820	Am	bark	Yankee	San Francisco	9.5days
831	U.S.	ship	John Adams	San Francisco	12
905	Peruvian	brig	Ellenita	San Francisco	13
913	Am	bark	Neptune	San Francisco	17
918	Am	bark	Frances Palmer	San Francisco	12
922	Am	clipper ship	Pampero	San Francisco	22
1002	Am	clipper ship	Pelynesia	San Francisco	14
1023	Am	sch	Flying Dart	San Francisco	16
1023	Am	clipper ship	Sea Serpent	San Francisco	14
1024	Am	clipper bk	Yankee	San Francisco	15
1028	H. B. M.	ship	Alarm	San Francisco	19
1030	Am	clipper ship	Robbin Hood	San Francisco	18
1101	Am	ship	Gladiator	San Francisco	21
1112		Clipper ship	Ouward	San Francisco	12
1201	Fr	bk	Tournay	San Francisco	12
1213	Am	clipper ship	B. F. Hoxie	San Francisco	12
1219	Am	bark	Yankee	San Francisco	14
1221	Am	brak	Fanny Major	San Francisco	17

とりわけ、アメリカ船籍のバーク型帆船7隻は最少9.5日、最大17日でサンフランシスコからホノルルに到着している。この7隻の航行日数の平均所要日数は13.4日で、汽船のアメリカ号の13日にほぼ匹敵している。当時のバーク型帆船の優秀さが知られるであろう。

### 3) 出港船

1856年6月から12月の間にホノルルからサンフランシスコに航行したのは次の17隻である。

1856年6-12月ホノルル出港サンフランシスコへ航行船一覧 表5

月日	船籍	船式	船名	船長	目的地
604	Am	bark	What Cheer	Baker	San Francisco
606	Am	bark	Frances Palmer	Stott	San Francisco
607	Br	Frigate	Alarm	Curry	San Francisco
612	Br	bark	Gen. Wood	Fuller	San Francisco
630	Peru	brig	Ellenita	Waitt	San Francisco
710		bk	Yankee	Smith	San Francisco
726	Am	bark	Fanny Major	Lawton	San Francisco
731	Am	bark	Frances Palmer	Scott	San Francisco
825	Am	sch	Vaqueru	Newell	San Francisco
904	Am	bark	Yankee	Smith	San Francisco
902	French	brig-of-war	Alcibiade	Marigny	San Francisco
904	Am	bark	Yankee	Smith	San Francisco
921	Grenadian	brig	Elleuita	Waitt	San Francisco
1021	Am	mer. bk	Fanny Major	Lawton	San Francisco
1102	Am	sch	Flying Dart	Freeman	San Francisco
1108	Am	bark	Yankee	Smith	San Francisco
1218	Br	sh	Post	Weigard	San Francisco

ホノルルからサンフランシスコに向かった17隻の内、アメリカ船籍が10隻で58.5%とイギリス船籍の3隻17.6%と圧倒していることがわかる。アメリカにとって太平洋上のハワイは海上航路上において重要であったことは明らかであろう。

これに対してハワイから西方のアジアへの航運はどのようなであったろうか。

ハワイ入港船で目的地を明らかに中国・香港として船舶は次のものである。

1856年6-12月間のホノルル港入港船の航行地別一覧 表6

月日	船籍	船式	船名	来航地	日数	目的地等
820	Peruvian	ship	Grimanesa	Callao	40	en route for Hongkong
1023	Am	clipper ship	Sea Serpent	San Francisco	14	Hong Kong
1030	Am	clipper ship	Robbin Hood	San Francisco	18	Shanghai
1108	Br	ship	Conqueror	Callao	36	Amoy, China, same day
1116	Chilean	bk	Diana	Callao	31	China on the 18th
1116	Chil.	bk	Alienca	Callao	31	China on the 18th
1112		Clipper ship	Ouward	San Francisco	12	China, same day
1201	Fr	bk	Tournay	San Francisco	12	China, same day
1220	Russian	clipper ship	Nicolas 1st	Sitka		China, Wednesday morning

アメリカ船籍2隻、チリ船2隻、イギリス船とフランス船、ロシア船、ペルー船が各1隻で、イギリス船はアモイを目指し、チリ船、フランス船、ロシア船も中国を目指している。ペルー船は香港を、アメリカ船は香港と上海を目指していた。

このうちイギリス船の Conqueror 号は、香港の新聞にその来港が知られる。The Hongkong Register 紙は、1856-57年分が不明であるが、1858年の第1号の中国の船舶情報として香港に停泊するイギリス船籍の船舶欄に Conqueror 号、650噸が見られる。（右写真の下段から二行目）香港入港、出港の情報も記載されていないので1857年中に香港には来港停泊していたものと思われる。

Ships	Date of Arrival	Tons	Consignees
<b>At Hongkong</b>			
<i>British</i>			
Abyssinian, ship	Dec. 2	1072	James Stephenson
Adon, steamer	Dec. 25	812	P. & O. S. N. Co
Agamemnon, ship	Sept. 9	974	Davis & Lawrence
Ann, steamer	Jan. 3	240	Lyall, Still and Co
Ann Key, schooner	Dec. 12	121	Lindsay and Co
Australia, ship	Sept. 5	586	John Burd and Co
Bervie Castle, ship	D. c. 2	661	Jardine, M. and Co
Chusan, steamer	Dec. 10	750	P. & O. S. N. Co
Circassian, ship	Sept. 22	430	John Burd and Co
Conqueror, ship		650	Lyall, Still and Co
Dinapore, ship	Nov. 30	789	Lindsay and Co

The Hongkong Register, Jan. 5, 1858

上海を目指しホノルル港を出港した船には次の2隻があった。

1856年6-12月ホノルル出港上海へ航行船一覧 表7

月日	船籍	船式	船名	船長	目的地
719	Ham	bark	Senator	Wesscls	Shanghai
1020	Br.	mer. bark	Avery	Jelland	Shanghai

ハンブルグ船とイギリス船であり、いずれも上海港を目指している。ハンブルグ船の Senator 号は 6 月 20 日にホノルル港に入港している。カナダ国境に近くワシントン州のシアトルが面するピュージェット湾の Puget Sound から 34 日の航海でホノルルに入港しほぼ 1 ヶ月ホノルルに滞船して、上海を目指して出港したのであった。

イギリス船の Avery 号は 128 日かけてイギリスのリバプールから 9 月 30 日にホノルルに入港し、約 20 日間にわたり滞船して、10 月 20 日に上海を目指して出港している。

Senator 号と Avery 号のその後の航跡について述べたい。上海の英字新聞 “*The North-China Herald*” Vol.VII., No.320 の ‘Shipping Intelligence’ の到着船の欄の 9 月 9 日の項目に、

Sept 9, Senator, Ha.bk. ,277, Hessels, Honolulu, July 20, Timber, Order とある。9 月 9 日に到着した Senator 号はハンブルク船籍のバーク型船 277 噸で船長は Hessels で、ハワイでは Wesscls と ‘W’ と ‘H’ が相違している。同船はホノルルを 7 月 20 日に出港し、木材を積載して来た。荷主は注文主であったとある。そうするとホノルルを 7 月 20 日に出港し 52 日の航海で上海に到着したのであった。Senator 号は、その後、年を越え上海に滞船し、1857 年 5 月 2 日に香港へ向けて上海を出港している。<sup>7</sup>

他方 Avery 号は、9 月 29 日に上海に入港した。“*The North-China Herald*” Vol.VII., No.332 の ‘Shipping Intelligence’ の到着船の欄の 11 月 29 日の項目に、

Nov 29, Avery, B. bark, 380, Jellard, Honolulu, Oct 21, Ballast, Shaw, Bland and Co. とある。イギリス船籍のバーク型帆船 380 噸の Avery 号は 10 月 21 日にホノルル港を出港し、11 月 29 日に上海に到着した。約 40 日かけての航海であった。Avery 号は、その後、20 数日上海に停泊している。そして Avery 号は茶葉や絹を積載してリバプールに向けて 12 月 26 日に上海を出港した。<sup>8</sup>

次に香港を目指した次の 4 隻について見てみたい。

1856 年 6-12 月ホノルル出港香港へ航行船一覧 表 8

月日	船籍	船式	船名	船長	目的地
802	Am	ship	Boston	Potter	Hongkong
825	Peruvian	ship	Grimanesa		Hongkong
1009	Ham	brig	Emma	Raben	Hongkong
1027	Am.	clipper ship	Sea Serpent	Whitmore	Hong Kong

<sup>7</sup> “*The North-China Herald*” VII., No.345,p.128.

<sup>8</sup> “*The North-China Herald*” VII., No.336,p.2.



アメリカ船籍の Boston 号は7月30日にアカプルコから22日かえてホノルルに入港し、8月2日に香港に向けて出港している。

ペルー船籍の Grimanesa 号は、ペルーの首都リマの外港であるカヤオ Callao から40日かけて8月20日にホノルル港に入港し、8月25日には香港に向けて出港した。

ハンブルグ船の Emma 号はハンブルグから9月17日にホノルル港に入港し、10月9日に香港を目指し出港している。

アメリカのクリッパーシップの Sea Serpent 号は、サンフランシスコから14日の航海でホノルルの来航し、10月27日に香港に向けて出港している。

アメリカ船籍の2隻とペルー船籍1隻の3隻は、いずれも新大陸から香港に向かう中継的位置にあるホノルルに寄港して香港に向けて出港したもので、水や食料の補給基地としてホノルル港が利用されたものとする。

#### 4 小結

上述のように、ハワイのホノルルで1856年7月2日に創刊された“*The Pacific Commercial Advertiser*”の創刊から年末までの半年分の船舶情報の記事から、6月初めから12月末までの間にホノルル港に入港また出港した船舶の状況が知られた。それらをもとにハワイの航運状況を探ってみた。

この時期の船舶は、アメリカで改造されたスクーナー型帆船が半数を占め、その他ブリック型、バーク型などの帆船で寡占されていたことがわかる。汽船は極めて珍しい船舶であった。さらに入港船の半数近くをハワイ以外の船舶で占められ、とりわけ40%近い入港数を示したのがアメリカ籍の船舶であった。これらアメリカ船籍の多くは、ハワイ諸島の穀物輸送やアメリカ東部の諸港との航運関係にも多く従事していたことが、上記の船舶情報から読み取ることができる。

ハワイ・ホノルル港とアメリカのサンフランシスコとの航運関係が密接で、アジアでは香港や上海との間の航運関係が少数ではあったが見られた。

上記の船舶の中には大航海の航運を行ったイギリス籍のバーク型帆船380噸の Avery 号が興味を引く。Avery 号は、リバプールから128日かけ1856年9月20日にホノルルに入港し、10月21日にホノルル港を出帆して、約40日後の11月29日に上海に到着、その後、20数日上海港に停泊した。Avery 号は、12月26日に茶葉や絹を積載してリバプールに向け上海を出港した。この事例のように帆船の大航海の航跡を確認見できる。

日本の開国以前のハワイ・ホノルル港の航運関係の状況を“*The Pacific Commercial Advertiser*”の記事が興味を喚起させてくれると言えるであろう。







































